

あこがれのたより

10月



発行責任者 原田 尚之

『患者さんを思う心』

校長 原田 尚之

10月12日（水）に行われた戴帽式でお話いたしました内容の一部を転載することで、私の思いを保護者の皆様にお伝えしたいと思います。

衛生看護科二学年の皆さんは、看護の道を志し、本校に入学して一年半、校内実習及び専門科目の理論学習に一生懸命努力を傾けてきました。その皆さんも、いよいよ病院での実地教育の第一歩を踏み出す、記念すべき日を迎えました。

先ほど、本格的な病院実習に臨む皆さんに、戴帽の儀をとり行いましたが、ナースキャップは、身体や心を病む人に対する、優しさや謙虚な心を象徴するものであり、皆さんが手にしたその灯（ともしび）は、かつてナイチンゲールが、己のすべてをなげうち、傷ついた兵士たちの看護をしたときの、献身的な精神を伝え続ける「看護の灯（ともしび）」であります。

さて、最近よくAI（人工知能）という言葉を目にします。AIの発展により、職場環境が爆発的に変化するだろうと言われています。一説によると現在ある職業の約半数は人工知能とロボットでできるようになると言われています。では、人工知能社会ではどのような分野の人材が必要とされるのでしょうか、①介護福祉、秘書業、接客業、癒やし関連、医療、学校の先生など、人間対人間の高度なサービスを要する分野 ②「ダンサー」「ミュージシャン」「画家」「スポーツ選手」「タレント」など、**クリエイティブな分野** ③**データ分析／予測に基づく判断**をする分野等であると言われています。看護はまさしく、一つ目の、人間対人間の高度なサービスの分野に当たります。

一方で、手順化・マニュアル化できる仕事は、人工知能とロボットに代替される可能性があります。近年、医学分野だけでなく人間社会は安全性を担保するために手順化・マニュアル化をしてきました。看護の世界でも同様だと思います。では、看護も人工知能とロボットにすれば、安全なのでしょうか。私はそう思いません。

ここで、ある薬剤師の方から聞いた話をします。薬の調合も機械化が進み、与えられた数値を入力すれば、薬が調合される時代だそうです。では、調合のミスは完全になくなったのでしょうか？ 残念ながら機械だけでは、完全にはなくならないようです。数値の入力ミス等はある得るからです。しかし、そのミスを感じ取る力があるのは人間です。それは、高い専門性に裏付けされた知識と技能、そして、一番大切なのは、「患者さんを思う心」が必要だそうです。その二つにより、ミスは防ぐことができるそうです。

知識や技能はもちろん大切ですが、かつてナイチンゲールが、己のすべてをなげうち、傷ついた兵士たちの看護をしたときの、献身的な精神。すなわち「患者さんを思う心」が一番大切かもしれません。

さて、明日からの実習は厳しく、辛いときがあるかもしれませんが、その厳しさの中で、高い専門性に裏付けされた知識と技能を身につけ、そして、一番大切な、「患者さんを思う心」を学び・育ててもらいたいと強く願っています。（一部省略）

以上のお話しをさせていただきました。

「患者さんを思う心」「顧客の方を思う心」「友達を思う心」「平和を思う心」……。AI（人工知能）が発展し、職場環境がどのように変化しても、一番大切なのは「〇〇を思う心」だと思います。本校においても、知識や技能（学習・部活動等）の向上はもちろんですが、様々な場面で「心」を育てていきたいと思っています。



第43回 戴帽式

10月12日（水）本校メモリアルホールにて、衛生看護科第43回戴帽式が行われました。多くの来賓、保護者そして2学年の生徒、先生方に見守られながら男子生徒はハンカチーフ、女子生徒はナースキャップを戴きました。生徒達は、感動とそしてこれからの病院実習の責任の重さを改めて感じる事ができた式だったと思います。誓いの言葉では、戴帽生代表 森あすかさん（2-7）が不安と期待が入り混じった気持ちを話したあと、生命と真摯に向き合うことを誓いました。

生徒達は戴帽式翌日から1年間の病院実習が始まります。病院実習では、病で苦しみながらも快く実習を引き受けて下さる患者様がいます。そして、指導をして下さる指導者がいます。多くの方々の支えがあって実習が行われることに感謝して、自分の夢実現に一歩一歩近づいて欲しいと思います。お忙しい中参列して頂いた来賓の方々、保護者の皆様には心よりお礼申し上げます。



教育講演会

9月27日（火）に1・2学年の保護者を対象に教育講演会を実施いたしました。講師には長崎県立図書館長の石部邦昭先生をお招きし、「保護者の“思い”が子供を伸ばす」と題して講演を頂きました。平日の昼間ではありましたが、多くの保護者様にご出席をいただきました。石部先生は元は県内の高校で教鞭を執られていただけに、自分の子供とどのように向き合うか、そしてその心構えなど、保護者の思いが大切であることを述べられていました。講演では終始子供に対する愛情を感じることも多く、先生の情の厚い人柄がいたるところで見られました。



防災避難訓練

10月18日（火）に五島消防署から3名の講師の方々にご来校いただき、防災避難訓練を行いました。調理実習室の火災を想定し、職員による通報訓練、及び職員・生徒による避難訓練を行いました。消防署職員の方からは、「訓練に関しては言うこと無し」とお墨付きを頂きました。その後、講話もいただき、水消火器で消火訓練を行いました。訓練終了後、津波が起きた場合の避難経路と不審者が校舎内に侵入した際の対応について本校職員が説明しました。今回の訓練で得たことを教訓にし緊急事態に備え準備をしておきましょう。

【11月の行事予定】

1日（火） 開校記念日・地域清掃・人生の達人セミナー
 3日（木） 3年大学別オープン模試
 5日（土） 石田塾（1・2年）
 5日・6日 3年進研マーク模試・2年准看模試
 9日（水） 准看護師資格試験100日前集会
 12日（土） 3年大学別オープン模試・准看模試

15日（火） 伝統芸能鑑賞
 19日（土） 石田塾（1・2年）
 19日・20日 3年全統マーク模試
 23日（水） 五島地区PTA研修会
 29日（火）～12月2日（金）
 期末考査・学年末考査

第3学年PTA&センター試験100日前集会

10月6日(木)学年PTAでは3学年委員長尾崎様のご挨拶、学年の現況報告、進路指導部からの説明を行いました。その後のセンター試験100日前集会では校長先生からの言葉に続き、保護者を代表してPTA副会長の横枕様からご挨拶をいただきました。最後に生徒を代表して、2名の生徒が決意表明を行いました。その内容の一部(抜粋)を紹介させていただきます。

3-2 林 繁斗君

入学後は毎日部活動に明け暮れ、友達と遊ぶことばかりを考えてきた結果、第一志望の大学を受験することが困難な状況となっています。今になってたくさんの意見やアドバイスをくださった先生方、私の顔を見ては「勉強しなさい」と言ってくる母の言葉が身にしみ、もっと勉強しておけばよかったと後悔の気持ちでいっぱいです。みなさんも少なからず私と同じような気持ちなのではないでしょうか。今日からの100日は、人生を成功させる最後のチャンスです。私には小学校の先生になりたいという夢があります。それぞれ努力の仕方は違うと思いますが、今まで共に学んできた仲間と一緒に全員で受験を成功させましょう。

3-4 中崎結奈さん

センター130日前に、阿比留先生から「100日前まであと30日、まずはこの30日を頑張ろう」という言葉をいただき、今のままの自分ではだめだと思い、家庭での勉強場所をリビングから自分の部屋へ変えるために、整理整頓し、勉強に必要なものは排除しました。さらに、やるべきことを内容別にまとめて実行したところ、学習が計画通りに進むようになりました。また、「朝と放課後には教室内で私語をしない」というクラスの約束事のおかげで、周囲への音の配慮ができるようになりました。受験に本気で向き合うことで、学習面でも生活面でも気づくことが増えました。残り100日でセンター本番です。今本気にならなければ、合格できないと思うので、学年一丸となって頑張ります。

中地区学習交流会

10月8日(土)~10日(月)にかけて、高校3年生を対象に諫早少年自然の家にて、九州大学に特化した学習交流会が開催されました。中地区を中心に7校から総勢118名が参加し、文理別の講義を10コマ受けました。本校からは20名の生徒が参加し、レベルの高い講義や他校の生徒との交流会を通して受験に関する様々な情報を得ることができました。良い刺激を受けたようです。

生徒感想(抜粋)

- ・島外生徒と情報を共有することで、とても勉強になったと同時に焦りを感じました。受験に対する意識がまだまだであったと痛感しています。わずかなスキマ時間(休み時間・消灯前など)であっても勉強している様子を見て、こつこつと努力を重ねていくことの大切さを再確認しました。
- ・五高では味わえないような感覚を体験することができました。貪欲に吸収しようとする姿勢が作り出す雰囲気は独特であり、九大には貪欲な学生が集まるのだらうと思いました。今回の交流会に参加し、九大に進学したいという気持ちが強くなりました。

五島地区学習交流会

10月8日(土)~10日(月)にかけて、高校3年生を対象に上五島高校にて、大学入試の2次試験を意識した学習交流会が開催されました。五島地区6校から総勢80名が参加し、文理別の講義を13コマ受けました。本校からは14名の生徒が参加し、他校の生徒との交流会や活気ある講義を通して、受験に向けて「五島地区でみんなでがんばろう!」という気持ちを高めることができました。チーム五島としてそれぞれの学校の生徒が入試に向けて弾みをつけることができたようです。

福江みなと祭り

本年度の福江みなと祭りは、前日までの雨模様や台風の接近があったにもかかわらず、天候にめぐまれ無事に実施されました。福江みなと祭りの参加者総数は延べ2000名、五島高校からはねぶた曳き・跳ね人・吹奏楽合わせて90名以上の参加がありました。五島高校のねぶたは、2日目の参加で、昨年度よりも長いコースになり、丸木の倉庫からねぶたを運び出し、商店街を抜け郵便局前でUターンをして倉庫まで戻ってきました。参加した90名以上の生徒たちにとっても、他の多くの生徒たちにとっても思い出に残る福江みなと祭りになったのではないのでしょうか。

保護者の皆様には、ねぶたへの参加や生徒の祭りへの参加の承諾など多くの御協力をいただき、ありがとうございました。今後も、地域行事への参加を積極的に行い、地域に支えられ愛される五島高校生であってほしいと思います。



読書感想文コンクール

9月30日（金）に、校内読書感想文コンクールが実施されました。コンクールを通して、同世代の人の考えを知ることができました。また、自分の考えにも気づくことができたはずで。私たちは、他者を通して、その考えや思いに共感したり反感を持ったりすることで自分を見つめることができます。自分の世界を広げて考えを深め、自分を新しく変えていくこともできます。他者との関わりが、私たちを成長させてくれます。本を読めば、いつでも他者と語り合うことができます。これからも多くの本を読み、多くを学び、考えを深め、さらに成長してほしいと思います。そのためにも、ぜひ図書館に足を運んでください。色々な本が、皆さんを待っています。

